



北海道PCR検査センター開設記者会見の様子

北海道医療大学の教育理念と北海道PCR検査センター コロナ禍の卒業生の皆様へ



医療技術学部 教授 吉田 繁

2019年末に中国武漢で確認された新型コロナウイルスは、瞬間に全世界に拡散し、2021年1月には世界の累計感染者は1億人を超え、1年前には予想し得ない社会となりました。登校禁止、授業の遠隔化といった教育環境の変化は多くの学生に多大な影響を与えました。誰もがコロナや社会に苛立ちを抱くのは当然ですが悪者探しだけでは前に進めません。医療人となる皆様にはこの経験をどう医療に役立てるのかを考えてほしいと思っています。さて、2020年12月、札幌あいの里キャンパス医療技術学部棟内に新型コロナウイルスPCR検査を実施する「北海道PCR検査センター」が開設されました。今回のパンデミックで多くの国民が初めて耳にした「PCR」ですが、臨床検査技師にとっては日常的な言葉であり、むしろ国会で安倍前首相が「臨床検査技師」という言葉を発したことが衝撃でした。本センターはソフトバンクグループが社会貢献として設立し、感染拡大防止と経済活動の早期正常化をめざし、無症状者を対象に1回2,000円(送料別)で検査をしています。北海道医療大学は「地域社会への貢献」を教育理念に掲げており、経済活動だけではなく教育活動の正常化に少しでも貢献したいとの思いから協力に至りまし

た。ちなみに医療技術学部教員が施設の設計、技術指導、品質管理を担っています。本センターは2021年1月に札幌市の経済活動や保健・医療・福祉活動の維持、市民が安心して生活できる環境整備に協力し、飲食店や医療施設、高齢者施設などを対象とした検査を実施しています。2月現在、検査者8名で1日約1,200件の検査を行っており、3月には1日3,000件の検査体制となります。しばらくはこの状況が続くと思われませんが、センター閉鎖予定である2022年3月までには流行が終息することを願っています。

昨年来、ほぼ毎日、TVや新聞で北海道医療大学の教員を目にすることからも本学が地域社会へ貢献しているのは確かです。本センターも感染拡大防止に少しでも貢献しているのなら、これほど嬉しいことはありません。医療現場で働くことは人々の幸せに貢献することです。嬉しいこともあれば大変なこともあります。あらゆる経験を自身の向上や後進の育成に役立ててほしいと思います。そう考えるとこの現状も多少は貴重な経験に思えてくるのではないのでしょうか。

最後になりましたが、ご卒業おめでとうございます！

CONTENTS

北海道医療大学の教育理念と 北海道PCR検査センター コロナ禍の卒業生の皆様へ	1
定年を迎える先生からのメッセージ 新任教員・昇任教員・新規選出教員役職者紹介	2
OPEN CAMPUS 2020 開催報告	5
同窓会活動状況	6
「緊急コロナ特別奨学金」の 新設について / 浅香学長メッセージ	8
OB訪問【臨床心理学科】	10
インターネットによる ご寄附が可能です	11
TOPICS EDITOR'S NOTE	12

Message

定年を迎える先生からの メッセージ With heartfelt thanks.



歯学部 教授
千葉 逸朗

「ご挨拶」

先日は私の最終講義「Lovely Sri Lanka, ラブリー当別」では多くの方々にご参加いただき、心より感謝申し上げます。コロナ禍の中、東京、名古屋など遠方からオンラインでご参加くださった方も多数おられ、ポストコロナに向けて新たな試みとなったと思います。

本学に赴任してこの3月で丁度20年になります。もともと口腔外科医だったのですが、訳あって突然公衆衛生、口腔衛生の分野に足を踏み入れました。そのため、1年目は学生教育で大変苦勞しました。国家試験での出題数が多く、必死に勉強し直し、学生の前では10年前から知っていたようなふりをしていました。今から考えると冷や汗ものです。一方で、COEへの挑戦、現代GPでの学生教育と地域とを結びつける「キャンパスレス教育」の推進、スリランカでの口腔がん予防プロジェクト、当別町でのフッ化物洗口事業など、思いついたことをがむしゃらにやった感じです。そして、このような苦勞が結実したのが模擬患者さんの育成です。当別町からたくさんの方が医療コミュニ

ケーション教育に参加してくださっています。

2014年には僧帽弁閉鎖不全症、うっ血性心不全となり、一世一代の大手術を受けて、死の淵から生き返りました。ICUで意識朦朧としていた時に、執刀医から「千葉先生、完璧!」と言われた時の天にも昇る気持ちは今でも心に残っています。医療人の一言は大切です。このような経験をすると人生観が変わります。「人のため」と思ってやってきた学生教育、地域貢献など人々を幸せにすることが、結局自分の喜びにもなっていることに気が付きました。

本学は医療系総合大学として、多職種連携の授業が簡単にできる環境にあります。シラバスに「縛られる」ことなく、学部の壁を取り払いたいと考えています。とりあえず引退という形ですが、模擬患者さんのお世話は致しますので、担当教員の先生方にご相談申し上げます。何卒よろしく願い申し上げます。



看護福祉学部 教授
向谷地 生良

北海道日高にある総合病院精神科で25年間にわたって、メンタルヘルス領域のソーシャルワーカーとして臨床経験を重ね、2003年4月から現在まで、本学の看護福祉学部臨床福祉学科の教員としての勤めを果たし18年目の今年3月をもって定年退職をすることになりました。通算して43年におよぶ研究者、臨床家としての歩みを振り返るならば、研究者としてのキャリアが全くない私が、これまで大学で仕事を続けられてきたのも、公私にわたる多くの皆様の助けのお陰だと思ひ深く感謝しております。本当にありがとうございます。

振り返れば、医療大に来てからの20年は、経済を

はじめさまざまな領域で日本の国力が損なわれ「失われた20年」と言われています。そして、それに追い打ちをかけるように東日本大震災、そして、昨年から続いているコロナ禍の中で、多くの生活困窮者が生まれ、人々の暮らしを支える福祉の役割はますます重要になっています。4月からは、そのような問題意識を持ちながら特任の教員として、引き続き先端研究推進センター当事者研究分野と学科の先生方と一緒に、本学の特色を生かした地域、市民、当事者と共同した研究と実践に関わっていく予定ですのでよろしく願い致します。



看護福祉学部 准教授
長谷川 聡

1955年生まれで定年退職となります。本学園の教員・職員、関係の皆様方、そして数多くの学生の皆様から身に余るご厚情を長く賜りました。まずは誌上をお借りして厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。そして皆様様のますますのご活躍とご多幸を、そして本学園のますますの発展を心底よりお祈り申し上げます。

私こと、看護福祉学部開設と共に東京から赴任して来道いたしました。1993年4月1日午前8時半過ぎ、正面守衛室・事務局へ出向いて出勤した旨を伝えた時、「えっ、もう来られたのですか。まだどなたも来ていません」「これが研究室の鍵です。新学部の先生で最初です」と言われたことを憶えています。

本学着任までに10回以上の引越を経験していました。しかし関東の外へ出たのは初めてでした。本学への

赴任話が始まるまで、北海道は来たこともありませんでした。道内に友人知人は両の手で数えられるほどしかいませんでした。

以来、28年の歳月が流れました。福祉の研究・教育・実践活動のために学生諸君やボランティアの皆様と、遊ぶために家族と、そして新しく友人となってくれた多くの皆様と、北の大地の東西南北中央を隈なく走り回り、179市町村のうち未踏のまちは一つ二つばかりになりました。そして最近、定年後も本道に住み続けるつもりで実家を処分し本籍も移しました。移住民である私と家族を温かく迎え入れてくれた北海道に恩返しするつもりで、この地の人々とのつながりを大切に、退職後も地域貢献活動を続けていくつもりです。あらためましてありがとうございました!!



リハビリテーション科学部
教授
泉 唯史

2013年に本学に就任して8年が経ちました。5番目の新設学部のリハビリテーション科学部長・研究科長を拝命し、学部の先生方とともに教育と研究の環境整備を行ってまいりました。

理学療法学科・作業療法学科の2学科開設と大学院リハビリテーション科学研究科博士前期(修士)課程の開設で幕が開け、その2年後には言語聴覚療法学科の改組により3学科体制となり、同時に大学院博士後期(博士)課程を開設。その翌年以降、文部科学省によるヒアリング、大学基準協会による審査などを受審しました。あの膨大な報告書の作成には執行部の先生や事務局の方たちの非常に大きな支えがあって進めることができた事業でした。

この1年は新型コロナウイルスの感染拡大というこれまで経験したことのない事態に直面し、講義はほぼオンラインに代わりました。特に臨床実習が軒並み中止となりました。臨床経験を经ない学生に対し、学外実習に代わる代

替実習を考案・実践していただいた教員の素早い対応には心から感謝を申し上げます。

北海道での臨床を経て1995年に岡山県で大学教員のキャリアをスタートさせ、一貫して呼吸・循環器系のリハビリテーションの実践と教育を行ってまいりました。重複障害を有する高齢者のリハビリテーションにとって、この分野はますます重要になっています。急性期から生活維持期に至るまで、命とQOLにかかわるこの分野はすべての職種が協働して介入することが必要です。本学は、リハビリテーションのコアスタッフ3職種の教育を、他学部を含む多職種との連携により推進し、より質の高い医療を提供することを教育上の理念として明確に示しています。このようなすばらしい大学で、皆様に支えられながら今日の日を迎えることができますこと、心から嬉しく思います。今後ともリハビリテーション教育に携わりながら、多少なりとも恩返しできればと思います。ありがとうございました。



リハビリテーション科学部
教授
西澤 典子

「定年退職にあたって」

2008年に心理科学部言語聴覚療法学科教授として赴任して以来13年間お勤めをさせていただき、2021年3月をもちましてリハビリテーション科学部言語聴覚療法学科を定年退職いたします。お世話になりました同僚、先輩の皆様、支えてくださった事務方の皆様、そして臨床をともにしてくださいました医師、言語聴覚士、スタッフの皆様方に心より御礼を申し上げます。

言語聴覚療法を自身の研究、臨床の中心に据えるということは、医師になって以来一貫した希望でありました。北海道大学の非常勤医師として専門外来での限られた臨床研究を業としていた私を見出してください、本学に職位を与えてくださったおかげで、たくさんの有能な言語聴覚士と仕事を共にすることができ、大

学、大学院で学生の教育にも携わることができました。医療大学での私の業績は、ひとえにこれら共同研究者と学生さんとの協働の賜物であります。職業人として本当に幸せであったと思います。これからは、すこし時間の余裕をもちながら、まだ書き残しているかもしれない論文、書籍の執筆にあたりたいと思います。

ただいまは疫病の蔓延という非常事態で、職員も学生さんも、大変にストレスの多い日常を送られていることと思いますが、このような災厄はいつか終わりますから、その日を楽しみに、今しか得られない知見を蓄え、次の時代に活かしていきましょう。北海道医療大学の益々の発展をお祈りいたします。ありがとうございました。

定年を迎える先生からのメッセージ



予防医療科学センター
教授

柴田 陸郎

「長年お世話になりありがとうございます」

私は2006年4月1日に北海道医療大学病院小児科に赴任しましたが、以前クリニック時代の当院へ応援に来ていたことがありました。当時一緒した方々もほとんどお辞めになり実質的にクリニック時代を知る最古参のメンバーになってしまいました。一人医長でしたが毎週水曜日午後には北大小児科から応援をいただき学内の兼任講師や北海道教育大学札幌校の非常勤講師を務めました。亡父は高校の教員で私には教職への憧れがありましたのでかなり力を入れて講義をしましたが熱意はさほど評価されず悲しい思いをしました。それでも国家試験の合格を報告しに外来を訪ねてくれた学生さんや卒業後に自分の弟を外来によしてくれられた方の存在など教師冥利に尽きる思いもさせていただきます。

2018年9月6日の北海道胆振東部地震のすぐ後9

月28、29日にロイトン札幌で第51回日本小児呼吸器学会を主催することができました。テーマを「多職種連携と知識共有」と定め演題100、出席者400を超える学術集会を成功裏に終えることができたのは事務局長の岩尾一生薬局長はじめ学内の多くの方々のご助力の賜物です。また本学同窓会からは同窓生研究助成金をいただいたこと深謝します。

学位は神経系のウイルス感染症で取得しましたが、個人で細々とEBCP(根拠に基づく臨床)の研究を継続しています。本職の小児科専門医・指導医の資格のほかにECFMG、小児神経専門医、プライマリ・ケア学会認定医・指導医、日本ウイルス学会ICD、産業医・介護支援専門員など多くの資格を得ました。私の働きながら資格を取得するノウハウを学生さんたちにお伝えしきれなかったのが唯一の心残りです。

以上の諸先生のほか、

薬学部 井関 健 教授、歯学部 尾西 みほ子 助教、

予防医療科学センター 田中 雅則 准教授が定年を迎えられます。

ありがとうございました。



薬学部
教授
井関 健



歯学部
助教
尾西 みほ子

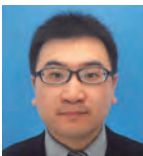


予防医療科学センター
准教授
田中 雅則

新任教員・昇任教員・新規選出教員役職者紹介

新任教員

2020年11月1日付け



薬学部 講師
(創薬化学〈薬化学〉)
平山 裕一郎(ひらやま ゆういちろう)

筑波大学第一学群自然科学類卒業。筑波大学大学院数理物質科学研究科化学専攻博士課程後期修了。筑波大学数理物質科学研究科特別研究員、静岡県立大学薬学部特任助教、ドイツライプニッツ機関HKI研究所客員研究員、静岡県立大学薬学部生薬天然物化学研究室特任助教、同薬学部生薬天然物化学研究室特別研究員、アニコム先進医療研究所株式会社博士研究員等を経て、本学就任。理学博士。

昇任教員

2020年11月1日付け

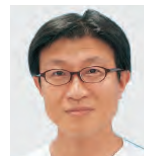


歯学部 講師
(口腔構造・機能発育学系〈組織学〉)
建部 廣明(たけべ ひろあき)

北海道医療大学歯学部卒業。北海道医療大学大学院歯学研究科博士課程修了。北海道医療大学歯科内科クリニック歯科臨床研修医、北海道医療大学歯学部任期制助手、同助教等を経て、就任。歯学博士。

新規選出教員役職者

2020年12月1日付け



大学病院歯科部副部長
永易 裕樹

OPEN CAMPUS 2020 開催報告

2020年のオープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮し、参加者を高校3年生のみに限定し、学科ごとに開催日程を分散させて実施いたしました。当日はマスクやフェイスシールドの着用、飛沫防止パネルの設置等、十分な感染対策を行った上で、学部学科に分かれ、様々なプログラムを実施しました。

※以下は、各学科で実施したプログラムの一部です。



薬学部 薬学科

結局のところPCRって何？
PCR実験を体験してみよう！



リハビリテーション科学部 理学療法学科

ベッド上での起き上がりから
車椅子への移乗動作介助、
車椅子操作の基本を体験してみよう！



歯学部 歯学科

最先端技術で口の中の
デジタル模型を作ってみよう！



リハビリテーション科学部 作業療法学科

作業療法の「評価」「治療」を
体験してみよう！



看護福祉学部 看護学科

先輩から聞く！
医療大看護学生のキャンパスライフ！



リハビリテーション科学部 言語聴覚療学科

子どものことばの発達の検査を
体験してみよう！



看護福祉学部 臨床福祉学科

障がいがあっても安全に楽しめる！
アダプテッド・スポーツ体験！



医療技術学部 臨床検査学科

検査の匠！物質を分離する
～ゲルろ過クロマトグラフィ～



心理科学部 臨床心理学科

コミュニケーションのヒント
「自分の気持ち、うまく伝えられますか？」



歯学部附属歯科衛生士専門学校 歯科衛生科

「超音波スケーラー」で
歯石取りにチャレンジ！

キャンパスツアー開催 2020年11月1日(日)・3日(火)

2020年11月1日(日)・3日(火)、当別・札幌あいの里キャンパスにおいてキャンパスツアーを開催しました。

高校1・2年生を対象に開催し、受付での検温・手指消毒やマスクの着用、グループごとに誘導を行うなど、新型コロナウイルス感染拡大防止のための配慮を十分行った上で実施しました。

11/1(日)は当別キャンパスにて薬学部コース・歯学部コース・ヒューマンケアコース(看護学科・臨床福祉学科・臨床心理学科)・リハビリテーション科学部コース、11/3(火)は札幌あいの里キャンパスにて臨床検査学科コースをそれぞれ午前・午後の2部制で開催しました。

当日はSCP(学生キャンパス副学長)や大学祭実行委員による大学紹介、講義室や実習室などのキャンパス見学や体験講義、在学生とのライブトークなど、様々なプログラムにご参加いただきました。



OPEN CAMPUS 2021
特設サイトを開設しました！

体験授業や在学生との交流など、
オープンキャンパスの様子をご覧ください。/
<https://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~koho/opencampus/>





薬学部
同窓会長
桂 正俊

薬学部

薬学部同窓会は昨年で創立40周年を迎え、5,000名を超える会員が全国各地で活躍しております。全国17支部(道内7、道外10)で活動を行い、医療薬学セミナーと同時に支部総会や懇親会を開催し、その地域での薬業や医療に関する情報交換を行っているところです。会員数の増加により、道内支部の細分化と道外の卒業生が減少していることから本州支部の統合やプロック化も含めて現在検討しております。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、各セミナーや創立40周年記念式典など、様々な行事やイベントが中止や延期となり、各支部での活動も縮小して行っている状況です。しかし、コロナ禍の中でもWEBを利用したりリモート研修等を薬剤師研修センター

〈創立年:1979年 会員数:約6,066名〉

の協力で、徐々に開催することができております。

コロナ禍以前は、卒業生の生涯教育として、医療薬学セミナーや将来ビジョン講座など卒業研修を企画するとともに「卒業生・在学生合同懇談会」を開催しており、我々同窓会としても、入学時から学生に対しての支援活動を通して大学に寄与できるよう努力してまいりましたが、在学生も同窓会準会員としておりますので、在学生に対しての更なる支援を今後も検討しております。

- <http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~phalumni/>
- yaku-dousoukai@hoku-iryu-u.ac.jp



歯学部
同窓会長
袁 隆宏

歯学部

歯学部同窓会は会員の共済、親睦、学術の向上、大学への貢献を目的し設立38年を迎えました。これらに加え、皆様の深いご理解と多大なるご協力のお陰と感謝申し上げます。

本会は、学生皆様が目標を達成するための応援を色々な形でしております。新入生オリエンテーションへの参加、OBによる講義、海外短期研修の補助、学外臨床実習への協力、卒業試験、国家試験の支援などその内容は多岐にわたります。しかし、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響でほとんどの事業はもちろんだら大学での講義すらままならない状況に追い込まれました。そこで、我々は「コロナで夢を諦めさせない!」をスローガンに「コロナ対策学生応援プロジェクト募金活動」を行いました。会員の皆様から寄せられた多額の浄財は困窮する後輩たちを救うべく、返済不要の給付型緊急コロナ特別奨学金として活用されることが決まり、先輩たちの愛と想いが形になって学生たちの手に渡ることは本当に嬉しく感無量です。

また、このたびは「健康が全てではないが、健康を失うと全てを失う」という言葉を実感

〈創立年:1984年 会員数:約3,312名〉

ました。この感染症は身体の健康を奪うだけでなく、感染者への誹謗中傷や、もしかしたら自分もという不安から心の健康を奪い、最悪の状況に至ることも恐ろしいものです。我々医療人と医療人を目指す学生の皆様は、自分を守り、大切な人を守り、そして社会を守る矜持を持った行動をとることが求められていると思います。

母なる学舎、母校で学ぶ後輩たちが、深い優しさに包まれながら夢に向かって学び、それぞれの立場で社会に貢献するという目的を達成するために、我々歯学部同窓会は母の如く皆様を応援し続けます。

- <http://www.hoku-iryu-u.com/>
- dousoukai-honbu@clock.ocn.ne.jp
- 事務局 札幌市北区北6条西6丁目2-11 第3山崎ビル4F
TEL 011-299-9069 FAX 011-299-9609



看護学部
同窓会長
川村 武昭

看護福祉学部／看護学科・札幌医療福祉専門学校／看護学科

福祉会(看護学科同窓会)は1997年に創立し、今年で活動25年目となりました。日頃から御尽力をいただいている同窓生の皆様をはじめ、各学部学科の同窓会役員の皆様、そして大学関係者の皆様にご協力をお願いして深く御礼申し上げます。

さて、今年度の同窓会活動は、昨年度末からの新型コロナウイルス感染症の影響により十分にできない状況が続いております。振り返れば、各種研修会をはじめ取り組みを検討するための役員会も開催を見送らざるを得ませんでした。その背景には我々の本業である看護を取り巻く環境の激変に日々追われてきたことに尽きます。例えるならば目隠しをしたまま綱渡りしているような状況で、先行きが読めず、常に緊張感の張りつめた毎日が続いています。ここまでの危機感を持ちながら過ごしてきた1年は未だかつて経験がありません。

このような状況下、今年度、同窓会として初めて取り組むことができたのはホームページをとおして広く同窓生に学生支援を募る活動です。私たちに新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けることとなった大学生への支援については、緊急事態宣言の発出頃より度々大きく報道され、国においても緊急対応措置として給付金の支給をはじめとした学生支援が打ち出されました。本校においても独自の取り組みがなされているところでありますが、今回、歯学部同窓会長の呼びかけかけ「コロナ対策学生応援プロジェクト」として全学部の同窓会で連携した取り組みに発展いたしました。このことで同窓生から本学の在学

〈創立年:1997年 会員数:約2,500名〉

生への支援の道筋を付けることができました。皆様におかれなくても、極めて厳しい状況下で日々お過ごしであること存じますが、これからの保健・医療・福祉を支えていく私たちの後輩の教育環境を側面的に支えるため、趣旨に御賛同いただける方についてはどうぞ御協力をよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症については、徐々に治療薬の開発が進み、ワクチン接種についても全世界的に開始され始めたところです。まだ先行きが見とおせるほど明るく照らし出されていないにしても、1年前の今日と比べてみれば、世の中の変化とそれに伴う私たちの行動の変化、成長を実感できるのではないのでしょうか。今後も福祉会としては、同窓生や在学生との繋がりが、ともに育ちあえる機会や関係性を構築してける環境の醸成を目指し、大学や他学部同窓会と連携を図りつつ、活動してまいりたいと考えています。同窓生が安心して語り合える機会が増えることで、看護職として、また、本学の同窓生としての繋がりを再認識できることが本会の発展に繋がると考えております。これからもどうぞよろしくお願いいたします。1年後、各々が様々な荒波を乗り越えたその先で、また元気に会いましょう。

- <http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~kango/>
- kango@hoku-iryu-u.ac.jp



看護福祉学部
同窓会長
小畑 友希

看護福祉学部／臨床福祉学科・札幌医療福祉専門学校／介護福祉学科

医療従事者の皆様、そして介護・福祉の現場の最前線で業務に従事している皆様に心より敬意と感謝を申し上げます。

さて、2020年は新型コロナウイルス感染症により計画していた活動がほぼ中止となりました。しかし、総会については、十分な感染防止対策をとりサテライトキャンパスで開催致しました。講演会などの企画はせず、短時間の設定ではありましたが、第1期生から第24期生(2020年3月卒業)まで集まりました。(密になるような人数ではありませんが…)特に昨春の卒業生は式典もなく卒業し、仲間たちと再会する機会を切望していることがひしひしと伝わりました。同窓会としても何らかのかたちでバックアップしていきたいと感じました。

2019年から同窓会で後援している「病院ではたらく相談のしごと体験講座」は、10月に計画していましたが、残念ながらコロナ情勢で中止となりました。患者さん、家族の幸せづく

〈創立年:2000年 会員数:約2,100名〉

りを目指し、ゆらぎを支え、お金、家族、仕事などの暮らしと一緒に創っていく医療ソーシャルワーカーの仕事に触れるよい企画ですので、次年度はオンライン講座も模索しつつ開催ができればと願っております。

医療大の特徴であるチーム医療というところでは、他の同窓会と企画している「コラボ☆講演会」のZOOM会議に参加しています。今後はネット環境を活用した取り組みも取り入れ、新たな同窓会活動を模索し構築していかなければならないと感じています。皆様、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

- <https://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~fukudo/>
- fukudo@hoku-iryu-u.ac.jp



臨床心理学科
同窓会長
上河 遼

心理科学部／臨床心理学科

平素より同窓会活動への格別のご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。本年度は、感染症の世界的な流行に伴い、会員の皆様方ならびにそのご家族の皆様方も多大な影響を被られたこと、心よりお見舞い申し上げます。

感染症の影響は、本年度の臨床心理学科同窓会の活動にも大きな変化をもたらしました。例年のような対面での同窓会セミナーの開催は困難となり、当初予定していたいくつかの新しい取り組みも軌道修正を余儀なくされました。結果として本年度は、来年度以降、会員の皆様方に確実にサービスを提供するための準備を整える1年となりました。その一環として、インターネットを介した同窓会サービスの提供やSNSの活用などを視野に入れ、同窓会員の皆様方に大規模なアンケートを行わせていただきました。その結果、インターネットやSNSを活用したサービスの提供に、8割以上の皆様方から賛成とご回答をいた

〈創立年:2006年 会員数:約537名〉

だいています。また、会員の皆様の方々が、TwitterやLINEでの情報収集を行っているという実情も明らかになりました。一方、従来の郵送、掲示形式での情報発信だと、およそ半数の方が同窓会の活動について「知らない」という現実も明らかになりました。よって、来年度以降は、SNSやWEB会議システムを活用した情報発信とサービスの提供に注力して参りたいと考えています。こうした変更に伴って、道外の会員の皆様にも同窓会セミナーへご参加いただくことができるようになり、オンラインでの進路、就職相談などの実施が可能になったりする見込みです。

これからも、同窓会へ変わらぬご支援を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

- <http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~p.dousou/>
- shinri-dousoukai@hotmail.co.jp



理学療法学科
同窓会長
武田 智洋

リハビリテーション科学部／理学療法学科

平素より理学療法学科同窓会の活動にご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございます。日頃からご尽力をいただいている同窓生をはじめ、他学部同窓会の皆様、本学関係者の皆様には改めて御礼申し上げます。

本学に理学療法学科が開設されてから8年が経ち、今年は5期生が社会人デビューを果たしました。今年もまた「北海道医療大学」から「理学療法士」が誕生したことを大変嬉しく思っております。これまでの卒業生は北海道内のみならず、全国各地の医療機関や福祉施設等で活躍しています。5期生の皆様、初めての仕事で慣れないことや多くの悩みが生じることがあるかと思いますが、そのような時は身近にいる卒業生に声をかけ、些細なことでも相談してみてください。きっと後輩である皆様のことを優しく支援し、心強い存在となっ

〈創立年:2017年 会員数:約250名〉

てくれるはずですよ。同窓会としても卒業生のサポート体制をさらに充実させていきたいと考えています。卒業教育の一環として、当学科教授を招いてのセミナー開催を企画しています。知識・経験が豊富な先生による講演や、学生時代を知る先生にだからこそできる相談など、「明日につながる」内容を求め、実践していきたいと思っております。

引き続き後援会の皆様をはじめ、他学部同窓会の先生方に御指導をいただきながら、本学の発展、同窓生のさらなる活躍の一助となるべく活動してまいりたいと思っております。

- <http://iryoudaipt.web.fc2.com/>
- iryoudaipt@gmail.com



作業療法学科
同窓会長

田丸 仁啓

リハビリテーション科学部／作業療法学科

(創立年:2017年 会員数:約140名)

作業療法学科同窓会は、開設より5年目を迎えます。設立初年度より顧問である作業療法学科近藤里美教授、あいの里ST会石黒会長をはじめ役員の皆様には多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

現在は約140名の同窓会員で活動しており、今後も毎年30-40名とまだまだ少ない会員数の期間が続きます。少人数という特徴を活かして密に連携をとりながら、当同窓会が同窓生、在学教員、在学生の繋がる場としてあり続け、発展していくことを願っております。今年度はCOVID-19の流行により同窓会活動も大きく制限されることになりました。昨年3月に予定しておりました、同窓会セミナーも中止をせざるを得ない状況となり頃からご支援をいただいております同窓生の皆様へ還元することができず非常に残念に思っております。毎月開催しておりました役員会も感染対策の観点から初めてのリモート会議を試みま

した。実際に使用してみると、費用の削減、時間的な参加のしやすさからメリットも多く感じることができ、今後の同窓会運営の一助となりました。どうかこの状況をいち早く打開すべく、医療人として日々新しい情報を取り入れ行動していくことが非常に重要であると改めて考えさせられました。

来年度はCOVID-19の状況を吟味し、同窓生の皆様へ還元できるよう同窓会セミナー等の開催も検討してまいります。

最後に北海道医療大学後援会の皆様、各同窓会役員の方々の皆様のご理解、ご協力の下に当会の運営が成り立っていますことに深く御礼申し上げます。

■ <https://www.ot40-jp.webnode.jp/>
■ hokuiryodai.ot@gmail.com



言語聴覚療法学科
同窓会長

石黒 恵美子

心理科学部／言語聴覚療法学科・ 札幌医療福祉専門学校／言語聴覚療法学科・言語聴覚療法専攻学科

(創立年:1994年 会員数:約1,950名)

当会は札幌医療福祉専門学校の言語聴覚療法学科の第1期卒業生により設立されました。講演会の企画・運営と年に2回の会報の発行を通し現役生・卒業生の皆様への情報提供を中心に活動してまいりましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、感染拡大防止のため6月に予定していた総会と言語聴覚療法学科同窓会セミナーの開催、および後期会報の発行をやむを得ず中止いたしました。

同窓会としてできることとして歯学部同窓会委員長よりご提案いただいた「コロナ対策学生応援プロジェクト募金」について会員の皆様へお知らせし、コロナ禍で経済的に厳しい状況にある学生さんを支援できるよう協力をお願いしております。

また、他学部同窓会と合同で開催予定の2021年3月6日(土)第14弾「コラボ☆講演会」に向け担当役員で準備を進めております。WEB会議システム「Zoom」を利用したオンライン形式での開催となります。ぜひ多くの皆様にご参加いただきたいと思います。

最後に、この場をお借りし北海道医療大学後援会の皆様・内外の先生方のご理解・ご協力を賜り運営を行っておりますことに、深く御礼申し上げます。

今後も感染症の状況に対応しながら同窓会活動を通じて皆様のお役に立てるよう、役員一同努力してまいります。

■ st-kai@hoku-iryu-u.ac.jp

北海道医療大学同窓会支部等連絡先

■薬学部

支部名	支部長(期)
札幌支部	多田 正人(4)
道北支部	沼野 達行(10)
十勝支部	石原 敦(3)
道南支部	吉田 元(12)
釧根支部	羽田野 貴志(11)
オホーツク支部	森谷 俊恵(13)
日胆支部	寺口 元(6)
青森支部	三上 章(1)
栃木支部	豊住 暢臣(17)
茨城支部	青木 邦子(4)
北越支部	杉本 雅規(3) ※支部長代理
神奈川県支部	萩原 秀男(5)
東海支部	高尾 信彦(2)
関西支部	山口 和俊(9)
中四国支部	黒長 正明(9)
九州支部	山田 昌人(3)
沖縄支部	村田 成夫(4)

■歯学部

支部名	支部長(期)	連絡先
北海道支部連合会	佐藤 明理(4)	医療法人社団明雄会そのま歯科 ☎011-387-8811
青森県支部	佐藤 孝治(2)	佐藤歯科医院 ☎0172-36-0412
秋田県支部	石川 承平(14)	いしかわ歯科・矯正歯科 018-887-3988
岩手県支部	高野 玄(18)	高野歯科クリニック ☎0197-23-2488
宮城県支部	郷家 道彦(10)	郷家第二歯科医院 ☎022-223-3306
山形県支部	芳賀 俊和(5)	芳賀歯科医院 ☎0238-84-8107
福島県支部	外島 昭夫(7)	ホワイト歯科医院 ☎024-875-3232
茨城県支部	秦 博文(2)	社会医療法人愛宣会ひたち医療センター歯科 ☎0294-37-0713
栃木県支部	松井 章(2)	松井歯科医院 ☎028-656-4618
群馬県支部	篠崎 広治(1)	しのぎ歯科医院 ☎0276-48-0118
埼玉県支部	青木 聡(7)	あおき歯科医院 ☎049-256-2220
千葉県支部	寺山 功(4)	葉山歯科医院 ☎0471-64-6480
東京都支部	蛭名 勝之(5)	エピナ歯科医院 ☎03-3200-4818

支部名	支部長(期)	連絡先
神奈川県支部	阿部 智彦(2)	阿部歯科医院 ☎045-953-7676
山梨県支部	安田 伸一(13)	やすだデンタルクリニック ☎055-243-8461
長野県支部	小池 文一(2)	小池歯科医院 ☎026-224-1482
新潟県支部	山下 克弥(9)	わかば歯科医院 ☎0258-83-1010
富山県支部	藤川 晃(5)	藤川歯科医院 ☎0764-83-2231
石川県支部	久保 伸一郎(2)	粟津歯科医院 ☎0761-44-4852
愛知県支部	木村 英雄(1)	こめの歯科医院 ☎052-451-1182
京都府支部	堀内 光一(10) ※支部長代理	堀内歯科医院 ☎0774-21-4016
大阪府支部	西 一幸(1)	西歯科医院 ☎06-6793-7500
広島県支部	神原 滋(6)	明王台クリニック ☎084-952-2281
四国支部	谷本 良司(3)	医療法人谷本歯科医院 ☎0883-42-2069
九州支部	清川 宗克(3)	清川歯科・口腔外科クリニック ☎092-822-8805
沖縄県支部	玉城 均(1)	ながた歯科医院 ☎098-854-1182

■看護福祉学部

☎0133-23-1211
○看護学科(内線:3641)担当:明野(実践基礎看護学講座)
○臨床福祉学科(内線:3708)担当:池森(介護福祉学講座)

■心理科学部・リハビリテーション科学部

☎0133-23-1211
(学務部・心理科学課・リハビリテーション科学課)
○臨床心理学 ○作業療法学科
○理学療法学科 ○言語聴覚療法学科



歯科衛生士専門学校
同窓会長

梶 美奈子

歯学部附属歯科衛生士専門学校

(創立年:1991年 正会員数:約1,267名、準会員:27名)

はじめに、新型コロナウイルスにより罹患された皆様と関係者の方々へ心よりお見舞い申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、県や国境をまたぐ移動が制限され、帰省できない。結婚式や人生のイベントを中止、延期あるいは、自粛しなければなりません。学生さんたちは、アルバイトができず生活が苦しい。など、これまでとは違った経験を強いられている今、本同窓会員は医療職の一員として日々、努力を惜みもなくそれぞれの職場で活躍しております。

2020年度同窓会の活動は、毎年行われていた、セミナーや会員が世代を超えて集まり意見交換を行う懇親会の開催を断念しました。唯一同窓会員の近況を知ることのできる同窓会誌「いずみ」を発行できたことは、会誌担当者の努力によるものであり、「何事にも

諦めず考えて努力し、問題を解決する」という本校の校風そのものだと思います。

同窓会の活動は、感染拡大防止を重視して自粛することが多くありましたが、1,200名を超えた同窓生からの志として些少ではありますが、本学の学生たちに少しでも役立てていただけるように寄附をさせていただきます。(これは、歯学部同窓会 委員長会のリーダーシップによるものです)

今後も「何事にも諦めず…」の「精神」で本校や他学部同窓会とも協力して、在校生や同窓生にとっても意味のある会となるように努力してまいります。

■ <http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~katakuri/>
■ okahashi@hoku-iryu-u.ac.jp

歯学部附属歯科衛生士専門学校同窓会支部連絡先

北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校 ☎0133-23-1211(内線:3482)担当:大山・岡橋

卒業生を対象とした各セミナー・
公開講座に関するお問い合わせ先

学術交流推進部
地域連携課

☎0133-23-1129(直通) E-mail:nice@hoku-iryu-u.ac.jp

同窓会等寄附金に基づく 「緊急コロナ特別奨学金」の新設について



未曾有の事態に直面し、日々の生活に影響を受けている皆様におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。

このたび、本学各同窓会等のご支援の下、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による生計維持者の収入や学生本人のアルバイト収入の減少等により、経済的に困窮している学生を支援するため、「緊急コロナ特別奨学金」(給付型)を新設し、給付を開始いたしました。

本特別奨学金は、本学各同窓会の呼びかけにより開始された「コロナ対策学生応援プロジェクト」～「コロナで夢を諦めさせない」をスローガンに、生活に困窮している学生を支援するためのプロジェクト～へ寄せられた寄附金に基づき給付されるものです。

緊急コロナ特別奨学金

1. 給付額

一人あたり 100,000円

※特に困窮が認められる場合には200,000円を限度として増額する場合があります。
※給付型ですので返還の必要はありません。

2. 申請対象者

以下の(1)～(3)すべてに該当する方とします。

- (1) 本学に在籍する正規の学生 ※休学中の者を除く。
- (2) 新型コロナウイルス感染拡大の影響によって生計維持者の収入や学生本人のアルバイト収入の減少等により、経済的に困窮している学生、または困窮が見込まれる学生で、家計等収入が次のいずれかの基準を満たすことが見込まれる者
 - a) 給与所得者 841万円以下
 - b) 給与所得以外 355万円以下※給与所得とそれ以外の所得の両方がある場合は、合計額が841万円以下であり、かつ給与以外の所得も355万円以下であること
- (3) 2020年4月開始の「国の高等教育修学支援新制度」を受給していない者

3. 選考方法・採用人数

日本学生支援機構奨学金第一種奨学金の家計基準を参考として選考を行い、採用人数は寄附金額の範囲内とします。

寄附額と給付実績

● 寄附金額／40,804,000円

● 給付学生数／114名

※ともに、1月末日現在



新型コロナウイルス感染拡大により、経済的に厳しい環境に置かれることとなった学生を支援するため、今後も「コロナ対策学生応援プロジェクト」を継続いたします。支援を必要とする学生へのご支援を引き続きよろしくご依頼申し上げます。

「コロナ対策学生応援プロジェクト」寄附への御礼

北海道医療大学 学長 浅香 正博



昨年は、全く予期していなかった新型コロナウイルス感染症のために北海道医療大学の卒業式ならびに入学式が中止となり、全学休講の状況が連休明けまで続き、その後、オンラインによる授業が開始されました。学生の皆様が支障なく、オンライン授業に取り組むことができるよう、北海道医療大学、歯科衛生士専門学校で学ぶ全ての学生に対して、オンライン授業等の学習環境整備も含めた自宅学修支援金として一人当たり一律に5万円を支給いたしました。

この大変な時期に合わせて各同窓会から北海道医療大学のコロナ対策学生応援プロジェクトに多大な寄附をいただきました。これを原資に緊急コロナ特別奨学金(給付型)を新設し、経済的に困窮している学生を支援致したいと考えております。本特別奨学金は、本学各同窓会の呼びかけにより開始された【「コロナ対策学生応援プロジェクト」～「コロナで夢を諦めさせない」をスローガンに、生活に困窮している学生を支援するためのプロジェクト～】へ寄せられた寄附金に基づき給付されるものです。このような同窓会からの寄附につきましては、大学を代表して心から謝意を表したいと思っております。さらにこの寄附は大学からの要請に基づくものではなく、同窓会の自主的な決断によるものであることに私自身、大変感動いたしております。コロナウイルス感染症が一日も早く収束し、大学の状況が平常に戻ることを祈念するとともに、緊急コロナ特別奨学金を学生への支援に役立たせるように計画を立てていきたいと思っております。

お問い合わせ

北海道医療大学 学務部学生支援課 緊急コロナ特別奨学金 担当

MAIL shien@hoku-iryu-u.ac.jp TEL 0133-23-1095

本学が、文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」 (タイプ3:地域連携型)に選定されました。

「私立大学等改革総合支援事業」は、地域社会の発展に寄与に取り組む大学等、または大学間、自治体・産業界等との連携のための大学改革推進に取り組む大学等を重点的に支援するものです。本学は、令和2年度私立大学等改革総合支援事業のうち、タイプ3:地域連携型に選定されました。当別町との連携、学生の地域ボランティア活動、そして、地方自治体や地元産業界における公開講座の実施等が評価されました。今後も研究・教育活動を通じて、地域社会の発展に寄与してまいります。

OB訪問



20年近くにわたり札幌市内、道内でスクールカウンセラーとしてキャリアを積み、母校の本学でも後輩の様々な悩みに耳を傾けている根本さんをあいの里キャンパス「学生相談室」に訪ねました。

北海道医療大学学生相談室カウンセラー、 スクールカウンセラー

公認心理師、臨床心理士

根本 大輔さん

(看護福祉学部医療福祉学科臨床心理専攻
[現心理科学部臨床心理学科]2000年3月卒業)

■ 児童、生徒、学生の相談相手

全国で公立学校のスクールカウンセラー配置が急速に進められた時期にキャリアをスタートさせた根本さん。スクールカウンセラーの役割を実践を通して構築し、その存在を浸透させてきた世代です。これまで小中高の教育現場で活動し、現在は月に5回、滝川市内の小学校に勤務しています。児童本人からの相談もありますが、多くは保護者、教員からの相談。彼らへのアドバイス、バックアップに多くの時間を使い、必要であれば家庭訪問も行うということです。「発達障害や不登校というキーワードは広く浸透してきましたが、一方で偏った認識や当事者を置き去りにするようなアプローチも見られます。当初は『学校復帰』を優先する流れが強かったのですが、現在では『登校しない』という選択肢も随分と許容されるようになりました。ただ、本人、家族、学校の考えるゴールが必ずしも一致するわけではないので、そこをいかにつないでいくか、ということも私たちの大切な役割です」。

並行して、本学学生相談室のカウンセラーも約15年にわたり務めています。学生相談室は本学学生が学業、対人関係、異性関係などあらゆる悩みを気軽に相談できる場所です。もう一人の女性のカウンセラーと交替で、根本さんは週に3日勤務しています。

■ 「よろず相談承ります」

学生相談室には、入学後の環境の変化にうまく適応できない、やる気が出ないなど多種多様な相談が持ち込まれます。時代が変

わっても内容に大きな変化はないそうです。根本さんは自らの仕事を「心を聞いていく仕事」と表現します。「勉強についていけない」と相談に来た学生の話を丁寧に聞いていくとその奥に隠れていた本当の悩みが現れてくることはよくあるそう。極めて個人的な問題だけに「この人にどこまで話せるか」を探り、信頼できると判断してから本音を出すのでしょう。そんな学生の、人になかなか伝えられない苦しさ、生きづらさに根本さんは寄り添い、必要なら卒業まで継続して伴走します。



曜日により当別、あいの里の両キャンパスに勤務。気軽に話せるよう、学生には「根本先生」ではなく「根本さん」と呼んでもらうことにしています。

ングを通して視点、考え方、行動に小さな変化を生み、次のステージ、例えば卒業後の社会に踏み出す一歩が少しでも軽くなり、生きやすくなるような手助けを心がけています。

■ 積み重ねが将来をつくる

根本さんは、依拠する学派や特定の研究分野を定めていないそうです。心理学における科学的アプローチやエビデンスを重視していますが、それを第一選択とするのではなく、目の前にいる相談者の思いや気持ち、「個」を大切にすることを矜持としています。「その時々々のテーマ、関心に集中して、いまできることを精一杯する。その積み重ねがカウンセラーとしての自分の将来をつくっていくと思っています」。20年近い経験を経てもなお、「人の心は簡単に『わかった』なんて言えるものではありません」と率直な根本さん。謙虚で寛容な人柄も相まって相手に緊張感を与えない敷居の低いカウンセラー、根本さんの下でたくさんの悩み事は少しずつ軽くなっているようです。

■ グレーを大事にする

「もともと優柔不断で、なかなか白黒つけられない自分を学生時代はカッコ悪いと思っていました」と根本さん。それが自らの成長と共に「一つの明確な答えを出すことが必ずしもいいとは限らないと思うようになった」そうです。「たどり着くところもその過程も白黒入り混じったグレーでもいいんです」。一つの答えを無理して追うより、カウンセリ



学生相談室では昨年のステイホーム期間中に電話、オンラインの相談体制を整え、現在は対面、電話、オンラインの3方法から相談形態を選べます。オンラインはマスクを外して、モニター越しとはいえお互いの表情を確認できるのがメリットです。生活リズムの乱れ、見通しの立たない不安など、学生の相談内容にCOVID-19の影響を感じるものの「カウンセリングのベースはどんな状況でも変わりません」と根本さん。頼もしいです。

インターネットによるご寄附が可能です

学園では、皆様からのご寄附を教育研究活動や施設設備の整備、学生支援ほか学園環境の充実のために活用させていただいています。

インターネットを通じてパソコンやスマートフォンなどから簡便にご寄附いただけます。

引き続き皆様からの温かいご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



STEP 1 本学ホームページの「北海道医療大学ボラリス基金」をクリック。



STEP 2 左側の「寄附のお申し込み」をクリック。

寄附の種類

- 特に用途を指定されない場合は、学校法人東日本学園全般の教育・研究・学習環境の充実、キャンパス整備、教育・研究活動の支援などに広く活用させていただきます。
 - 特定の用途に限定してご寄附いただくことも可能です。インターネットによるご寄附の入力ページには以下の項目を設けております。
 - ①教育環境や学生支援制度の充実のため
 - ②研究活動および研究者支援のため
 - ③キャンパスの環境整備および学園の施設整備のため
 - ④医療機関の施設設備充実のため
 - ⑤その他
- ※新型コロナウイルス感染拡大により、経済的に厳しい環境に置かれることとなった学生さんを支援するため、「コロナ対策学生応援プロジェクト」を展開中です。この制度は、寄附の目的を当該プロジェクトと指定していただくと、お預かりした寄附金を、支援を必要とする学生さんに直接給付するものです。

記念品の贈呈

本学では、10,000円以上をご寄附いただきました個人の方に、金額に応じてWEB芳名録への記載と記念品をお送りいたします。

	100,000円未満	300,000円未満	300,000円以上
WEB芳名録	●	●	●
ロイズ ショコラの四季 (専用箱入)	●	●	●
ハンドタオル (大学名入)		いずれか希望する一方	●
ピュアモルトペン (大学名入)			●

※10,000円以上のご寄附をいただいた個人の方が対象となります。
 ※土地・建物・金銭にかかるご寄附をいただいた方が対象となります。
 ※WEB芳名録は専用ページを開設いたします。ご希望されない場合は掲載いたしません。

インターネットによるお申し込み (クレジットカード・コンビニエンスストア・Pay-easy)

パソコン、スマートフォンなどからアクセスし、煩雑な手続きを経ずご寄附いただけます。なお、インターネットによるお申し込みは、学園が寄附の決済代行を委託している株式会社エフレジの「F-REGI寄附支払い」を利用したお手続きとなります。

銀行振込によるお申し込み

金融機関ATMやネットバンキング、銀行窓口からご寄附いただけます。寄附申込書をダウンロードするボタンから寄附申込書を印刷し、必要事項をご記入のうえ、以下のお問い合わせ先まで郵送またはEメールでお送りください。なお、電話連絡いただけましたら、郵送にて寄附申込書をお届けします。

スマートフォンからのご寄附のお申し込みはこちら。

https://kifu.f-regi.com/contribute/hoku_iryu_u



税制上の優遇措置

個人、法人を問わず、寄附者の皆様には寄附金額に応じて寄附金控除を受けることができます。詳細は、ホームページ左側の「税制上の優遇措置」からご確認ください。

ご寄附に関するお問い合わせ先

北海道医療大学 学術交流推進部

TEL 0133-23-1129

FAX 0133-23-1296

E-mail kyousui@hoku-iryu-u.ac.jp

「ちょびっと体操®」が 特許庁より商標登録されました。

北海道医療大学病院リハビリテーション科で考案した「ちょびっと体操®」が、特許庁より商標登録されました。「ちょびっと体操®」は「縮む」と「伸びる」動作を組み合わせた体操で、少し(=ちょびっと:北海道で親しみのある表現)の時間と頑張りでストレッチと筋力効果を生み出します。まずは、高齢者の健康増進と介護予防を中心に、さらにスポーツ選手のパフォーマンスの向上と子供たちの姿勢改善を目的に「ちょびっと体操®」を広める活動を行います。

先日、大学の在学生の協力のもと、動画を撮影しました。大学の公式YouTubeチャンネルにて公開しておりますので、ぜひご覧ください。

「ちょびっと体操®」に関する講演会や研修会などのご要望がある場合は、お気軽に下記までお問い合わせください。

《お問い合わせ先》

北海道医療大学病院リハビリテーション科

TEL:011-778-7575 / Email:y-kataoka@hoku-iryo-u.ac.jp

(理学療法士 片岡 義明)



「ちょびっと体操®」
YouTube動画は
こちらから



本学における多職種連携教育の取り組みに 関する発表が学会賞を受賞しました。

2020年10月10日(土)、全学教育推進センター(心理学部併任)の安部博史教授が、第13回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会において、「いいね賞(学会参加者が選ぶ最優秀演題賞)」を受賞しました。

日本保健医療福祉連携教育学会は、「保健・医療・福祉各分野の連携に基づく教育・研究と実践を推進し、我が国における健康で豊かな長寿社会の発展に寄与するとともに、会員相互の資質の向上と交流を図ることを目的(会則 第3条)」とした学会で、日本国内における多職種連携教育・チーム医療に関する教育・研究において中心的な役割を果たしています。

安部教授は、新型コロナウイルスで遠隔講義を余儀なくされた状況下において、オンデマンド教材を中心とした多職種連携教育を提案し、同内容を「全学的な多職種連携科目におけるICTの利用」というタイトルで発表しました。

安部教授は「本学の「チーム医療教育」および「多職種連携教育」への取り組みが、専門家の皆様から一定の評価を得たことを大変嬉しく光栄に受け止めております。今後もより一層、様々な専門職業人を養成する本学の総合系医療大学としての特色を生かし、多職種連携教育の推進に取り組み、地域社会および学生の皆様のニーズに応えられるよう努力してまいります」と話しています。



令和2年度北海道福祉のまちづくり賞で オープンカレッジ準備委員会が表彰されました。

令和2年度北海道福祉のまちづくり賞の「活動部門」において、本学オープンカレッジ準備委員会が受賞し、2020年10月23日(金)、ホテルポールスター札幌にて表彰式が行われました。

今回受賞した「オープンカレッジ in 北海道医療大学」は、学校を卒業した知的障がい者の「もっと勉強したい!」という思いに応え、生涯学習の機会として2003年から開催しています。運営スタッフや学習サポーターとして多くの学生が参加しているほか、地域で活動している方も講師として参加しており、地域ぐるみで活動を展開していることなどが総合的に評価されました。

当日は、オープンカレッジ準備委員会代表の看護福祉学部臨床福祉学科第3学年の杉本亜美さんが出席し、賞状が授与されました。



EDITOR'S NOTE

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

令和2(2020)年度は学位記・卒業証書授与式を執り行うことができたが、学生生活最後の1年を新型コロナウイルス感染症でふりまわされた大変な学生生活であったことと思います。毎日の体温チェックや健康管理記録はもちろんですが、以前では考えられなかったリモート形式での授業や演習などがあたりまえになりました。教職員も会議はもちろん研修会、学会もリモート形式でオンライン、テレワークといったことも普通に行われるようになりました。多分、この新しい生活様式はコロナ禍が落ち着いてもある程度は残り、これからの社会生活へ大きく変化を及ぼすことでしょう。学ぶことも数多くありました。「ウイルス」とは、その感染はどのようにして行われるのか、さらにその対策はどうすればよいか、大学での講義や実習で学ぶ以上に、嫌というほど知識や技能が身についたことと思います。これから医療人として社会へ出てからは、先頭に立って身につけた知識と技能を思う存分発揮してください。新型コロナウイルスのワクチン接種などの仕事も始まります。学んだことを糧として、変化する時代へ柔軟に対応し、新しい知識・技術を吸収してください。そしてさらにプロフェッショナルとして社会へ還元してください。大学の評価は卒業生の活躍で決まります。ひとりひとりが北海道医療大学を卒業したという誇りと自信をもって世の中に貢献してほしいと強く願います。医療人として社会にはばたき活躍されることを祈念いたします。(T.E記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.176

STAFF ● 遠藤 泰 浜上 尚也 志茂 剛 飯嶋 雅弘
八木 ことえ 下山美由紀 真島 理恵 澤田 篤史
児玉 壮志 下村 敦司 近藤 啓 高橋 祐輔
山形 摩紗 三浦 清志 三川 清輝 近田 卓哉

発行日 ● 2021年3月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報部 入試広報課

〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757

TEL:0133-22-2113

http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしています。
E-mail:nyushi@hoku-iryo-u.ac.jp



■北海道医療大学の教育理念

生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを北海道医療大学の教育理念とする。